

平成 25 年 3 月 28 日  
独立行政法人国民生活センター

## 医療機関ネットワーク事業からみた家庭内事故 －高齢者編－

2010 年 12 月から 2012 年 12 月末までの約 2 年間で、医療機関ネットワーク事業<sup>(注1)</sup>に参画する 13 医療機関から 9,889 件<sup>(注2)</sup>の事故情報を収集した。そのうち、65 歳以上の高齢者の事故情報は 669 件<sup>(注2)</sup>収集されている。

事故の収集が開始されて 2 年を過ぎたことから、主に 65 歳以上の高齢者の事故について事故の事例を中心に分析結果をまとめた。なお、国民生活センターでは過去に 2 回「高齢者の家庭内事故」を分析して情報提供を行っている<sup>(注3)</sup>。

(注1) 医療機関ネットワークとは、2010 年 12 月から運用が開始された消費者庁と国民生活センターとの共同事業で、消費生活において生命または、身体に被害が生じる事故に遭い医療機関を利用した被害者から、事故の詳細情報を収集するものである。

(注2) 2010年12月～2012年12月末までの伝送分。

(注3) 2003年5月9日公表「危害情報からみた高齢者の家庭内事故」[http://www.kokusen.go.jp/news/data/n-20030509\\_1.html](http://www.kokusen.go.jp/news/data/n-20030509_1.html)  
2008年9月4日公表「病院危害情報からみた高齢者の家庭内事故-死亡事故のトップはやけど-」  
[http://www.kokusen.go.jp/news/data/n-20080904\\_3.html](http://www.kokusen.go.jp/news/data/n-20080904_3.html)

全国の危害情報収集協力病院から収集した情報による。協力病院が危害情報を収集する病院情報は、2010年3月末日で終了した。

## 1. 医療機関ネットワーク事業における高齢者の家庭内事故について

医療機関ネットワーク事業に参画している13医療機関より、20歳以上の事故情報が2010年12月から2012年12月末までに1,631件寄せられている。そのうち、20歳以上65歳未満(以下、「65歳未満」とする。)の事故は962件、65歳以上の事故は669件である。

20歳以上の事故の事故発生場所をみると、「住宅」での事故が73.8%(1,203件)と約7割を占める。65歳未満71.4%(687件)と65歳以上77.1%(516件)では事故発生場所の傾向にあまり差がない(図1)が、「住宅」における事故の危害の程度(注4)をみると、65歳未満と比べて65歳以上の高齢者の事故は重症化している傾向がみられる(図2)。そこで、「事故発生場所=住宅」での事故を「家庭内事故」とし、65歳以上の高齢者の家庭内事故516件を中心に分析した(分析内容は「6. 医療機関ネットワーク分析内容」参照)。

(注4) 医療機関ネットワークにおける危害の程度の定義  
 軽症：入院を要さない傷病  
 中等症：生命に危険はないが、入院を要する状態  
 重症：生命に危険が及ぶ可能性が高い状態  
 重篤：生命に危機が迫っている状態  
 死亡

図1 事故発生場所 1

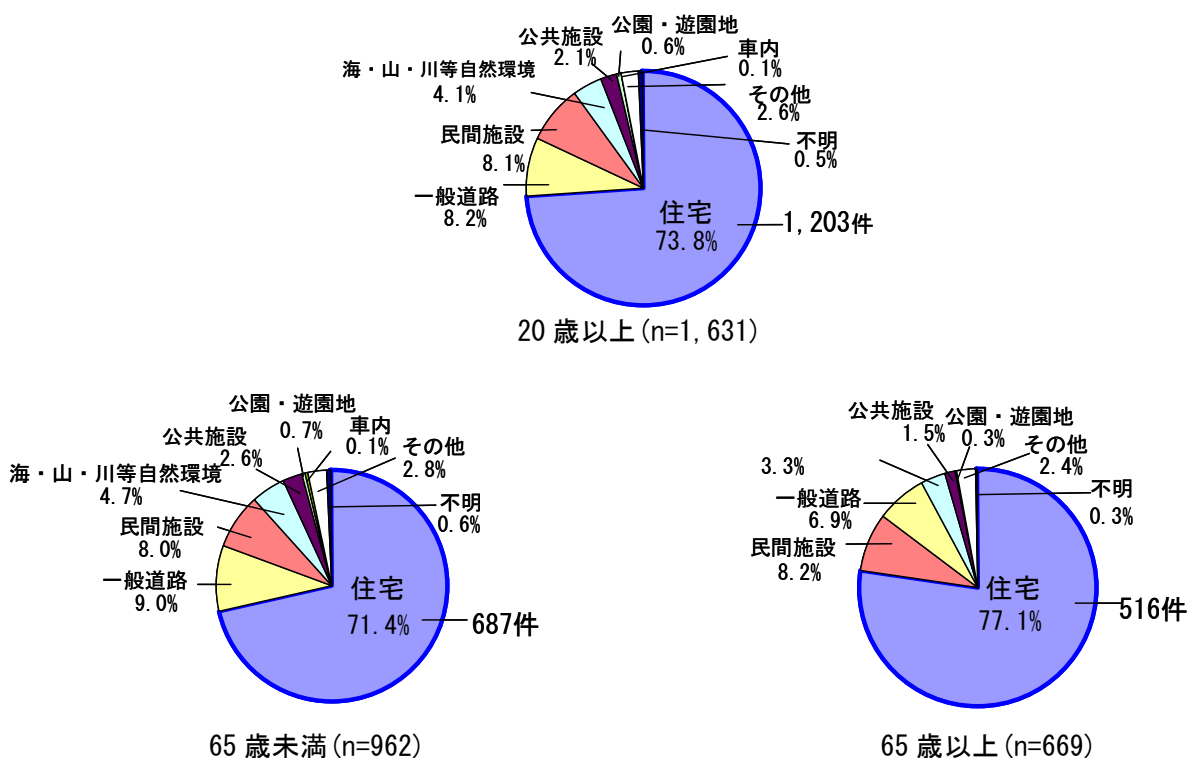
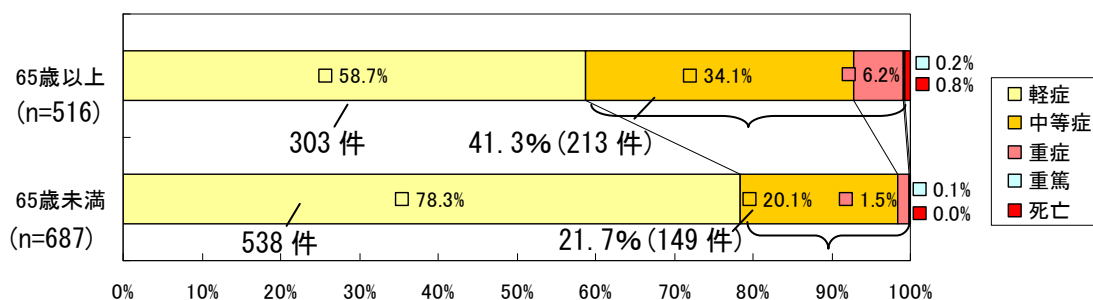


図2 「住宅」での事故の危害の程度



## 2. 事例等からみた高齢者の家庭内事故の特徴

### (1) 階段等からの転落、転倒

高齢者の家庭内事故 516 件のうち、事故のきっかけで多いものは「転落」30.4% (157 件)、「転倒」22.1% (114 件) の順であった。その中でも、「階段」によるけがが最も多かった(「転落」: 43.3% (68 件)、「転倒」: 15.8% (18 件) )。危害内容は「擦過傷・挫傷・打撲傷」が「転落」「転倒」ともに最も多かった(「転落」: 41.2% (28 件)、「転倒」: 55.6% (10 件) )。次いで「骨折」についても「転落」「転倒」ともに最も多かった(「転落」: 30.9% (21 件)、「転倒」: 27.8% (5 件))。骨折した場合は、入院を要する重いけがになる傾向があった。

階段などの段差でつまずく、足がもつれて家具にぶつかる、ベッドから降りるときに転落する、靴下が引っかかって転落する、バスマットやじゅうたん、毛布などに足をとられて転倒するなど、ちょっとしたことが転落・転倒の原因になっている。また、寝起きや就寝中にトイレに行くためにベッドから降りたときに転倒する事例などもあった。

### (2) 屋外作業中の転落

「階段」による事故以外には、庭の木の<sup>きんてい</sup>剪定作業や、屋根の雪下ろし等の作業を自分でを行い、脚立やはしご等の高所から転落したものが目についた。屋根や脚立、はしごなど高所からの転落は重大な事故につながるおそれがあり、死亡事故も発生している。

### (3) 食料品等の誤飲・<sup>ごえん</sup>誤嚥

「誤飲・誤嚥」は 48 件あり、そのうち 2 件は死亡事故である。死亡事故はおむすびや食パンの食料品を喉につまらせたものであった。食料品のほかには、除草剤や漂白剤等の薬品類、薬の包装の誤飲も見受けられた。特に、薬の包装を誤飲すると内視鏡等を使つての摘出が必要になる場合もある<sup>(注5)</sup>。

(注5) 参考: 2010 年 9 月 15 日公表 「注意! 高齢者に目立つ薬の包装シートの誤飲事故 - 飲み込んだ PTP 包装が喉や食道などを傷つけるおそれも -」  
[http://www.kokusen.go.jp/news/data/n-20100915\\_1.html](http://www.kokusen.go.jp/news/data/n-20100915_1.html)

### (4) 着衣着火でのやけど

「熱傷」は 69 件あり、そのうち「着衣着火」は 11 件(15.9%)で、1 件は死亡事故である。仏壇のローソクの火や、ガスコンロの火から衣類に着火した事例が見受けられた。衣類の種類によっては短時間で全焼に至るもの<sup>(注6)</sup>もあり、消火が遅れると重症化することも考えられる。

(注6) 参考: 2008 年 12 月 4 日公表 「危険! 着衣着火に注意 - 未然防止には防災製品が効果的 -」  
[http://www.kokusen.go.jp/news/data/n-20081204\\_1.html](http://www.kokusen.go.jp/news/data/n-20081204_1.html)

### (5) 風呂場での転倒、やけど

風呂場は転倒のほか、浴槽で熱い湯に漬かってしまったことによるやけど、<sup>できすい</sup>溺水等も起こりやすい場所である。「風呂場」の事故は 10 件だが、そのうち事故のきっかけでは「転倒」が 7 件であった。危害内容では「熱傷」は 1 件であったが、「重症」であった。

### 3. 主な事例

#### (1) 階段や脚立からの転落、段差による転倒

##### 【事例】

自宅の階段を下りていたところ、手すりをつかむ手をひねってしまい、その場で転倒し、6-7段ほど仰向けで転落し、左肋骨<sup>ろっこつ</sup>を骨折した。

(2012年7月発生、83歳、男性、重症)

##### 【事例】

自宅玄関の小さな段差につまずき、お尻から転んで足を強く打撲し、骨折した。

(2011年11月発生、83歳、男性、重症)

##### 【事例】

トイレに行こうとした際にベッドから転落し、頭部を打撲して骨折し、入院した。

(2011年9月発生、96歳、男性、重症)

##### 【事例】

回転いすに登って探し物をしていたところ、いすが回転してしまつて転倒し、手首を骨折した。

(2012年8月発生、71歳、女性、中等症)

##### 【事例】

縁側から庭に降りる際に段差で転倒し、大腿部<sup>だいたいぶ</sup>を打撲して骨折した。

(2012年7月発生、83歳、女性、中等症)

##### 【事例】

階段を2段階み外して転落し、かかとを骨折した。

(2012年6月発生、85歳、女性、中等症)

##### 【事例】

朝トイレに行こうとしたがベッドを畳の上と勘違いして立ち上がり、ベッドから転落して腕を骨折し、入院した。

(2012年6月発生、81歳、女性、中等症)

##### 【事例】

階段の1段目から足を踏み外して転落し、尻餅をつく。太ももを骨折して入院した。

(2011年9月発生、86歳、女性、中等症)

##### 【事例】

自宅の階段(5段目)から落ち、階段下にあったプラスチック製の靴箱の角で頭を打った。明らかな骨折はなかったが、太ももや肩を打撲し、頸椎<sup>けいつい</sup>を捻挫した。

(2011年1月発生、71歳、女性、中等症)

#### (2) 屋外作業中の転落

##### 【事例】

剪定作業中、1mの高さのはしごから転落して左大腿骨、腰椎、仙骨の骨折や内臓を損傷し、死亡した。

(2011年6月発生、75歳、男性、死亡)

**【事例】**

木の枝の剪定のため2m位のはしごに登っていたところ、足を滑らせて背中から転落し、<sup>ざこつ</sup>坐骨を骨折した。

(2012年4月発生、78歳、女性、中等症)

**【事例】**

雪下ろしをしていてはしごと屋根から落下し、足を骨折した。

(2012年2月発生、75歳、男性、中等症)

**【事例】**

剪定中、1-2mの脚立からコンクリートの地面に転落し、頭部や腕を打撲し、入院した。

(2011年4月発生、79歳、男性、中等症)

**(3) 食料品等の誤飲・誤嚥**

**【事例】**

食べていたサンドイッチを喉に詰まらせて意識を消失し、救急搬送されるも死亡した。

(2011年2月発生、95歳、男性、死亡)

**【事例】**

赤飯のおむすびを一人で食べていて、いすに座って意識を失っているところを発見され救急搬送されるも死亡した。

(2011年1月発生、74歳、女性、死亡)

**【事例】**

いつも飲んでた薬をシートごと誤飲した。

(2011年12月発生、84歳、女性、中等症)

**【事例】**

みたらし団子(1cm大)を喉につまらせ窒息し、呼吸停止して救急搬送された。

(2011年10月発生、67歳、女性、中等症)

**【事例】**

漂白剤を薄めたものを誤飲し、救急搬送された。

(2011年9月発生、92歳、女性、中等症)

**(4) 着衣着火でのやけど**

**【事例】**

仏壇の火がワンピース型の服に燃え移り、ほぼ全身に<sup>すいほう</sup>水疱形成を伴うやけどを負い、死亡した。

(2011年8月発生、82歳、女性、死亡)

**【事例】**

仏壇上の電球を替えていた際にろうそくの火が洋服に燃え移り、足や背中等にやけどを負った。

(2011年2月発生、76歳、女性、重症)

**【事例】**

台所の窓を開けようとした際に、コンロの火がエプロンについてやけどを負った。

(2010年9月発生、84歳、女性、中等症)

**【事例】**

ガスコンロの火が肩にかけていたカーディガンのそでに燃え移り、カーディガンの中まで火がまわってしまい、背中に2度のやけどを負った。

(2012年7月発生、77歳、女性、軽症)

**(5) 風呂場での転倒、やけど**

**【事例】**

熱湯をはった浴槽に入り、3度のやけどを負った。普段は家族が差し水をしてから入浴していたが、自分で湯をはって差し水をせずに入浴してしまった。

(2011年1月発生、82歳、男性、重症)

**【事例】**

風呂場の段差で滑り落ちかかとを骨折した。

(2012年4月発生、79歳、女性、中等症)

**【事例】**

風呂場で転倒し、左大腿骨を骨折した。

(2011年1月発生、84歳、女性、中等症)

#### 4. 専門家からの助言

地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター(東京都老人総合研究所)

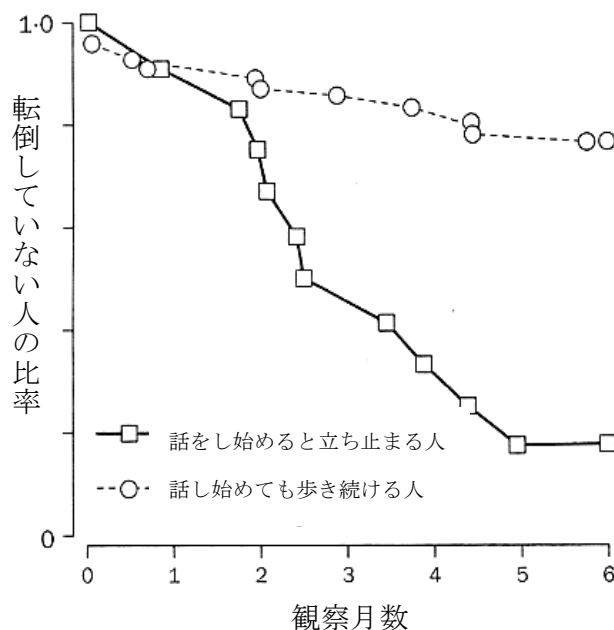
高橋 龍太郎 副所長

家庭内事故を起こした方の年齢や性別について特徴がみられます。男性では活動性の高い前期高齢者が多いのに対し、女性では外出や歩行にやや不安が出てきている75歳以上の高齢者に発生頻度が高いのです。そのため、男性では、住宅内といっても庭での木の剪定作業中といった屋外での事故が多くなる傾向があり、女性では、居間での電球の交換時や高い位置にある押し入れの物を取ろうとしたときのような生活空間での事故が多いのです。

高齢期に事故が起こりやすい背景として、Dual Task 障害、すなわち「2つの動作を同時に行うことの困難」というものがあります。図3はその実験結果で、歩行中、「話をし始めると立ち止まる人」では、半年以内に8割が転倒していたのに対し、「話し始めても歩き続ける人」ではおよそ2割にとどまっていたというものです。何かの動作中に別のことに注意を向けるのが難しい人は転びやすいようです。ただし、無理に2つのことを続けようとするのはかえって危険なので注意してください。

75歳以上の年齢層では、男女とも骨の構造が弱くなって骨量が減少してきます。そのため、転倒によって骨折を起こしやすくなります。横に転ぶと、大腿骨が突出している大転子部が衝撃を受け、大腿骨頸部骨折が起きます。手をついて衝撃を避けると、頻度は少なくなりますが、利き手の親指側の手首(橈骨遠位端と呼ばれる場所です)の骨折を起こすことがあります。一度骨折を経験すると、外出するのに不安が強くなって活動性が落ちてきてしまうことがありますので、転倒の予防はとても大切なことなのです。

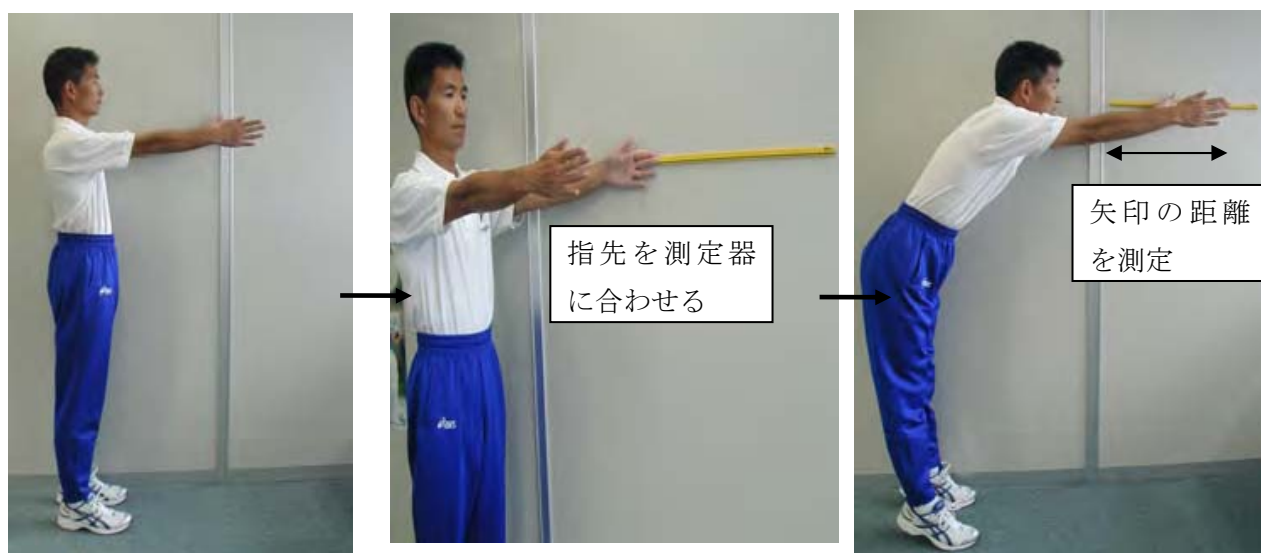
図3 「話をし始めると立ち止まる」(Stop walking when talking)が観察された者は半年以内に8割が転倒 (Lundin-Olsson L, Nyberg L, Gustafson Y : “Stop walking when talking” as a predictor of falls in elderly people. Lancet 349 : 617, 1997.)



よく使われている転倒しやすさを測定する方法があります。一つは、バランス能力をみるファンクショナル・リーチ・テストと呼ばれるもので、図4のようにして距離を2回測定し、長い方を測定値とします。この値が15cm未満になるととても転倒しやすくなることがわかっています。また、毎秒どのくらい歩いているかも重要な指標です。いくつかの考え方がありますが、0.8メートル/秒(1時間に3km弱)を切るようになると身体の虚弱化が進んでいると考えられます。

#### 図4 ファンクショナル・リーチ・テスト(バランス能力のテスト)

ファンクショナル・リーチ・テストはバランス能力(立っている時にどれだけ重心を足底面の中心から離せるか)を測定するものです。両足を開いて安定した姿勢で両腕を90度<sup>きよじょう</sup>拳上します。そして、肩の高さに上げた拳の先端位置に印をつけ、拳を同じ高さに維持したまま、足を動かさずにできるだけ前方に手を伸ばし、最長地点に印を付けます。この時、かかとを上げて爪先立ちになってもかまいません。この2つの印の距離を測定します。



\*転倒等災害リスク評価セルフチェック実施マニュアル(平成21年度 中央労働災害防止協会)より引用(「6. 参考資料」参照)

転倒予防には筋力よりもバランス力を鍛えることが重要です。バランス力は高齢者後期からでも鍛えることが可能です。

また、高齢になることで、嚥下能力は確実に低下します。会話するときには気道、食事をするときには食道を使うようにそれぞれを切り替える弁(スイッチ)がありますが、高齢になるとそのスイッチがうまくはまらなくなる頻度が上がります。食事の際には「食べる」「飲む」という意識ができる方がよいので、一口あたりスプーンに少量ではなく、10cc-20cc程度の適量があるとよいでしょう。

高齢者については、「自分自身で様々な作業をしながら生活を営んでいく」ことも大切ですが、生活の作業全てを自分でやる必要はありません。自分ができない作業等はデイサービスやレトルト食品等の代替機能を利用しながら、自分の生活リズムを作っていくことが大切です。



## 5. 事故を防ぐための注意点

高齢者は2つのことを同時に行うことが困難になると言われています。何かの動作中に別のことに注意を向けることが難しい場合は転びやすい傾向があるとされています。特に75歳以上では骨の構造が弱くなっていくため、転倒や転落によって骨折しやすくなるおそれがあります。

自分がどの程度転倒等をしやすい状態なのかを知り、自分ができないことは他の代替機能を利用するなどして事故を予防しましょう。

### (1) 階段には手すりや照明器具を設置し、階段の周りにもものを置かないようにしましょう

階段での事故が圧倒的に多いため、階段に手すりを設けたり、手元、足元が暗くならないように照明器具をつけるなどの工夫が必要です。階段や階段のそばに物が置いてあるとつまずいてしまう事例もあることから、階段の周りにもものを置かないようにしましょう。

### (2) 高所での作業は1人で行わないようにしましょう

脚立やはしご等を利用して屋根などの高所で行う作業は、なるべく専門の事業者や若い人に頼みましょう。また、1人で作業して転落した場合に、発見が遅れるおそれもあるため、作業の際は必ず複数人で行いましょう。

### (3) 食事の際には適量を口に運び、ゆっくり食べることを意識しましょう。また、飲料と間違えてしまうような液体などは手の届くところに置かないようにしましょう

高齢になると、食べ物等を飲み込む力が低下します。ゆっくりと「食べる」「飲む」ことを意識して食事をしましょう。また、飲料と間違えてしまうような洗剤等の液体を飲料の容器やコップに入れないようにしましょう。

### (4) 火を使うときには衣類のそでやすそに注意しましょう

そでやすそが広がったような衣類は、火がついても気づきにくいので注意しましょう。火が燃え広がりにくい防炎品のパジャマやエプロン、カーディガンなどの利用も効果的です。

### (5) 浴室と脱衣場の温度差を減らしたり、湯温が熱くなりすぎないように管理しましょう

脱衣場と浴室やお湯の温度差などが脳や心臓に負担となります。家族が入浴した後でシャワーで給湯して浴室を暖めてから入浴し、心臓などに負担をかけないようにしましょう。冬場は脱衣場も暖房して脱衣場と浴室の温度差を減らすようにしましょう。医療機関ネットワークには事例は入っていませんが、冬場の脱衣所、浴槽内等の温度差から心疾患による突然死を招くおそれもあります<sup>(注7)</sup>。

また、裸で体全体に湯を浴びる行為は熱湯の場合、全身やけどに至るおそれがあるため非常に危険です。給湯やシャワーの湯温が熱くならないように管理しましょう。

(注7) 参考：1998年11月19日公表「冬の夜中は要注意！高齢者の入浴中突然死が増えている」

[http://www.kokusen.go.jp/news/data/a\\_W\\_NEWS\\_126.html](http://www.kokusen.go.jp/news/data/a_W_NEWS_126.html)

**(6) 商品選びを工夫しましょう**

必要に応じて、高齢者向けの安全性の高い商品や、使いやすく工夫されたユニバーサルデザインの商品も活用しましょう。

## 6. 医療機関ネットワーク分析内容

以下、特段の説明がない限り、資料内にある件数・割合は65歳以上の高齢者の家庭内事故516件を分析したものである。

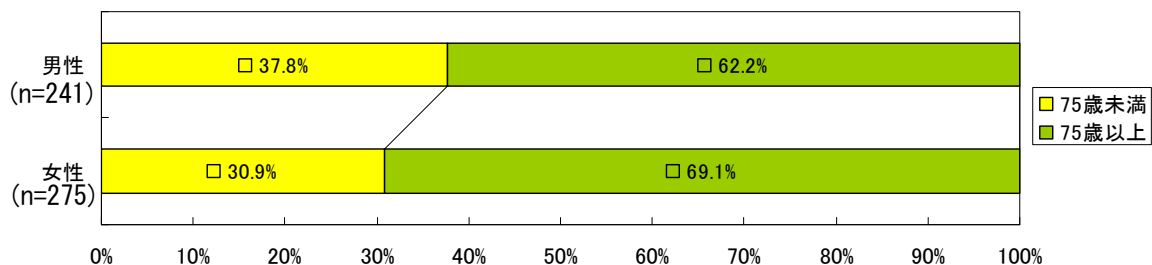
### (1) 性別・年齢別

#### 家庭内でけがをした人の性別は男女半々であり、男女ともに75歳以上の事故が多い

性別でみると、「女性」が53.3%(275件)、「男性」が46.7%(241件)と女性がやや多いものの、男女半々であった。

年齢別でみると、高齢者のうち家庭内でけがをした人は65歳以上75歳未満(以下、「75歳未満」とする。)が34.1%(176件)、75歳以上では65.9%(340件)となり、75歳以上の方が多かった。性別と年齢別でみると、75歳以上の「男性」62.2%(150件)、75歳以上の「女性」69.1%(190件)となり、男女ともに75歳以上の方が多かった(図5)。

図5 性別・年齢別



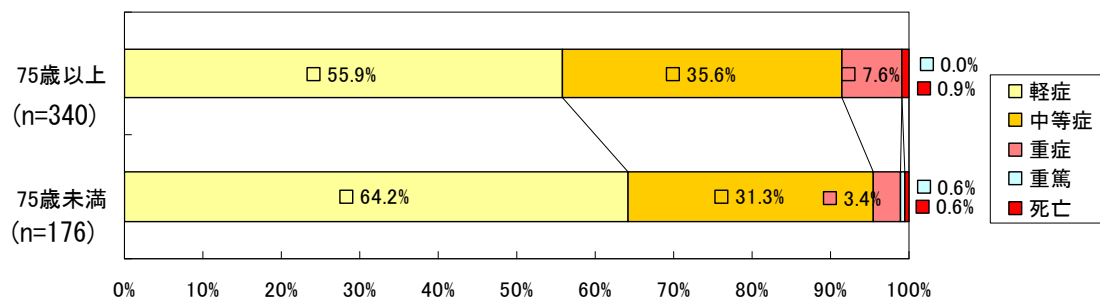
### (2) 危害の程度

#### 「軽症」が全体の約6割を占めたが、年齢別でみると75歳以上は重症化する割合が高い

危害の程度別では、「軽症」58.7%(303件)、「中等症」34.1%(176件)、「重症」6.2%(32件)、「重篤」0.2%(1件)、「死亡」0.8%(4件)であった(図2)。

65歳未満では「軽症」78.3%(538件)、「中等症」20.1%(138件)、「重症」1.5%(10件)、「重篤」0.1%(1件)であることから、高齢者の方が中等症以上の重い症状の割合が高いことがわかった(図2)。また、高齢者のうち75歳未満では、「軽症」64.2%(113件)、「中等症」31.3%(55件)、「重症」3.4%(6件)、「重篤」0.6%(1件)、「死亡」0.6%(1件)であるが、75歳以上では、「軽症」55.9%(190件)、「中等症」35.6%(121件)、「重症」7.6%(26件)、「死亡」0.9%(3件)であり、75歳以上の方がより重症化する割合が高かった(図6)。

図6 危害の程度別(65歳以上の内訳)



高齢者は「中等症」が約3割を占めており、「死亡」4件は赤飯のおむすびやサンドイッチを喉に詰まらせたことによる「呼吸器障害」や「窒息」、着衣着火による「熱傷」、剪定作業中の転落に

よる「内臓損傷」であった。

### (3) 危害内容

「擦過傷・挫傷・打撲傷」が最も多く、75歳以上になると「骨折」の割合が増す。また、「熱傷」は重症度が上がる

危害内容別では、「擦過傷・挫傷・打撲傷」26.6%(137件)が最も多く、次いで「骨折」21.7%(112件)、「刺傷・切傷・裂傷」15.3%(79件)、「熱傷」13.4%(69件)の順であった(図7-1)。「擦過傷・挫傷・打撲傷」は75歳未満では22.7%(40件)、75歳以上では28.5%(97件)で1位であった(図7-2)。また、「骨折」は75歳未満では18.2%(32件)だが、75歳以上では23.5%(80件)と骨折の割合が増えていた(図7-2)。

危害の程度別にみると、「軽症」の場合は「擦過傷・挫傷・打撲傷」40.6%(123件)、「刺傷・切傷・裂傷」22.8%(69件)、「熱傷」12.5%(38件)、「異物侵入」8.3%(25件)、「びらん・炎症(眼・皮膚障害等)」5.6%(17件)であるが、「中等症」の場合は「骨折」53.4%(94件)、「熱傷」13.1%(23件)、「重症」は「骨折」40.6%(13件)、「熱傷」18.8%(6件)、「重篤」は「熱傷」1件であった。「死亡」は「熱傷」、「呼吸器障害」、「窒息」、「内臓損傷」がそれぞれ1件ずつであった(別表)。

図7-1 危害内容

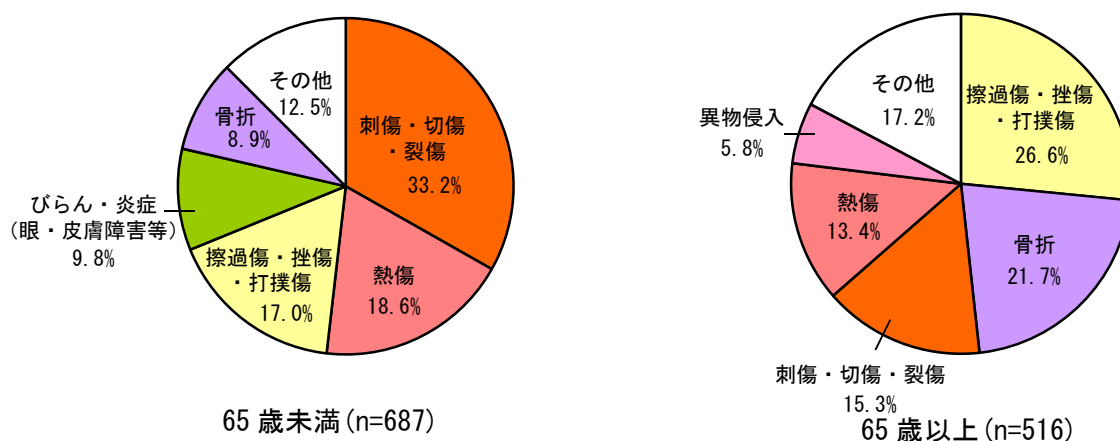
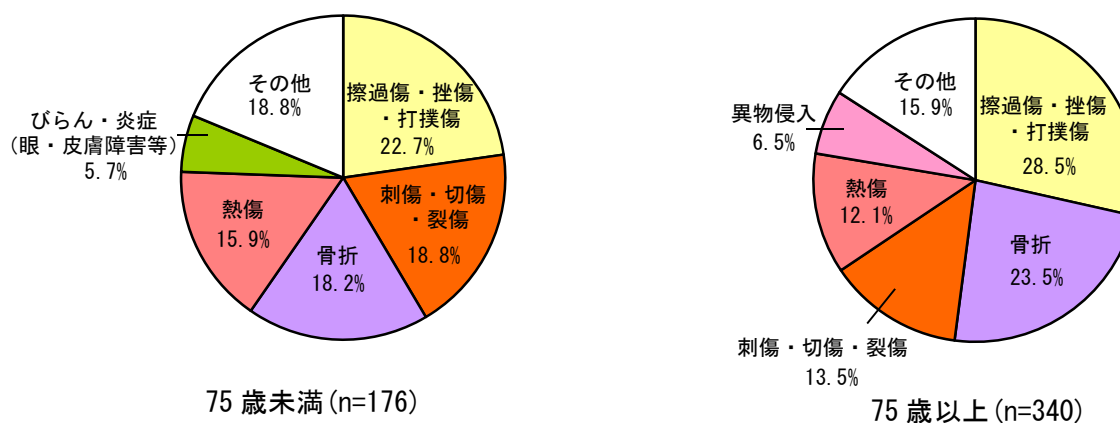


図7-2 危害内容(65歳以上の内訳数)



(4) 危害部位

「軽症」では「頭部」のけがが最も多いが、「大腿・下腿」のけがになると重症化しがちである

危害部位では、「頭部」17.2% (89 件)、「大腿・下腿」14.7% (76 件)、「手指」10.1% (52 件)と続いた(図 8-1)。また、高齢者のうち 75 歳未満では「頭部」9.7% (17 件)、「大腿・下腿」9.1% (16 件)だったが、75 歳以上では「頭部」21.2% (72 件)、「大腿・下腿」17.6% (60 件)となり、それぞれ約 2 倍になっていた(図 8-2)。

危害の程度別にみると、「軽症」では「頭部」22.1% (67 件)が多いが、「中等症」「重症」では「大腿・下腿」がそれぞれ最も多かった(中等症 : 23.9%、42 件、重症 : 31.3%、10 件)。「死亡」では「腹部」「全身」「気道」「鼻・咽頭」がそれぞれ 1 件ずつであった(別表)。

図 8-1 危害部位

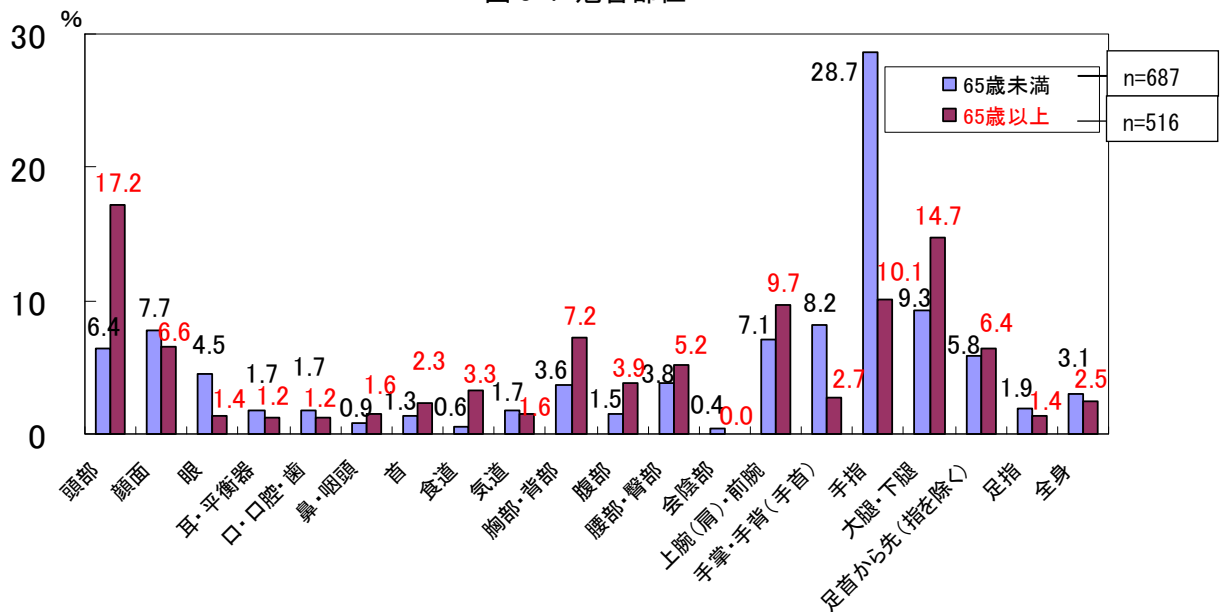
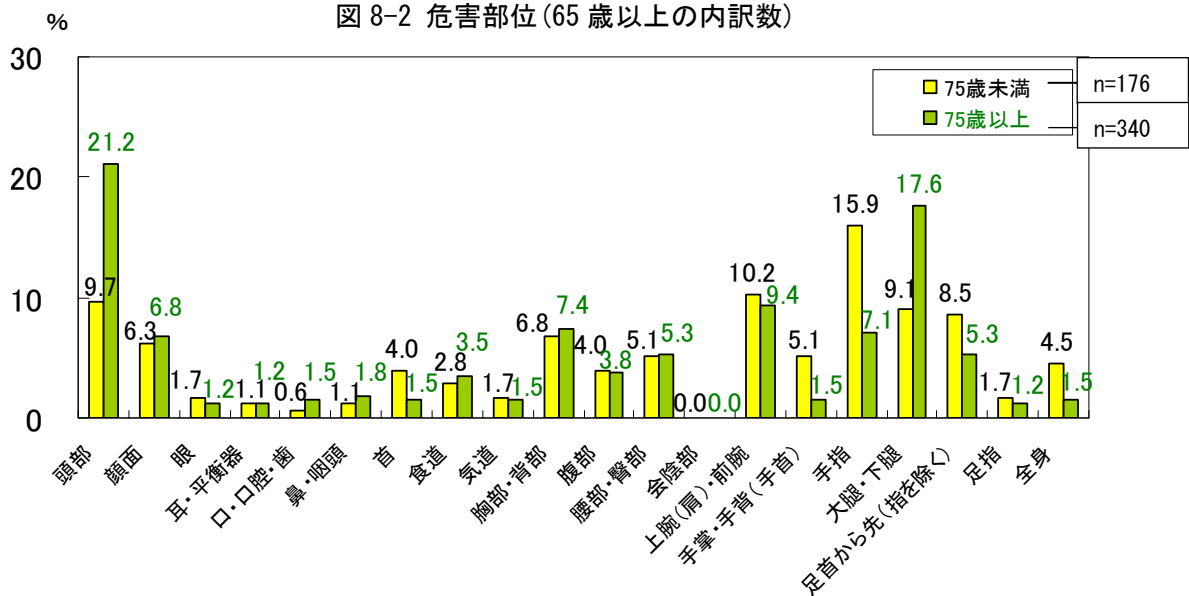


図 8-2 危害部位 (65 歳以上の内訳数)



(5) 事故発生場所

事故は「屋外」よりも「屋内」の方が多く発生しており、「居室」が最も多い。「屋外」は「敷地内園庭」が6割以上を占める

「事故発生場所＝住宅」の中で「屋内」での事故は78.9%(407件)、「屋外」は20.9%(108件)であり、「屋内」が約8割を占めた(無回答:65歳未満1件)。「屋内」407件をみると、「居室」45.0%(183件)、「階段」18.7%(76件)、「台所・食堂」17.0%(69件)の順に多かった(図9-1)。65歳未満では「台所・食堂」38.1%(213件)、「居室」35.1%(196件)、「階段」12.9%(72件)となり、高齢者と順位は同じではないが、発生場所の傾向としては同じであった。高齢者のうち75歳以上では「居室」49.6%(141件)が最も高かった(図9-2、無回答:75歳未満1件)。

「屋外」は「ベランダ」「屋根・屋上」「敷地内道路」「敷地内園庭」「その他」に分類される。「屋外」108件をみると、「敷地内園庭」が65.7%(71件)で最も多かった(無回答:75歳未満1件)。

図9-1 事故発生場所詳細(屋内)

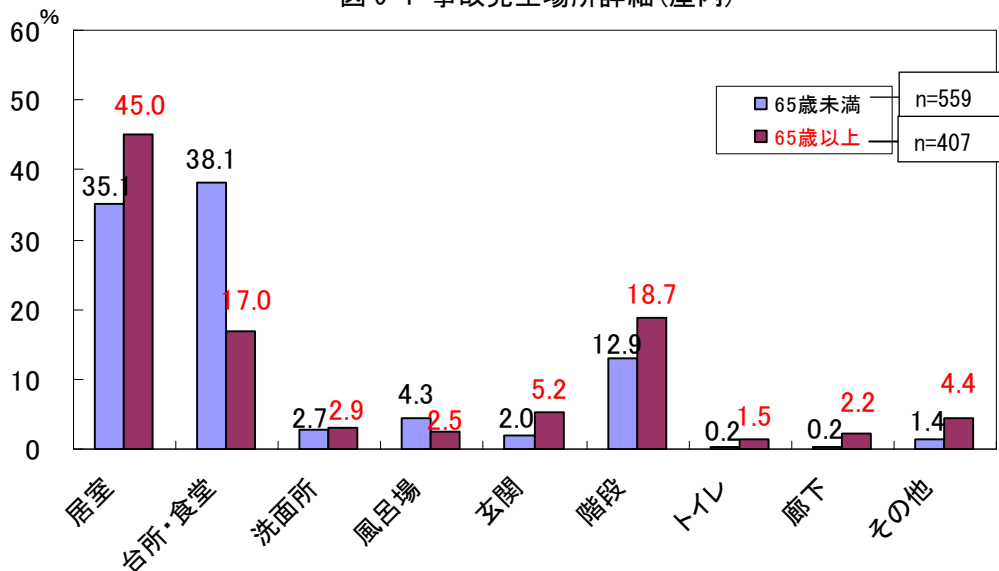
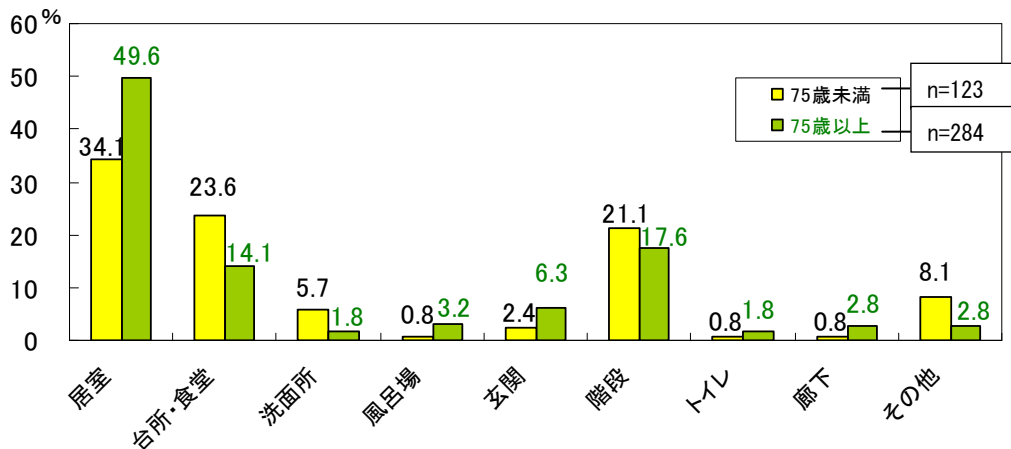


図9-2 事故発生場所詳細(屋内、65歳以上の内訳)



## (6) 危害の原因となった商品・設備

### 「階段」が最も多く、事故が発生する割合は高齢者の方が高い

危害の原因となったもの(商品・設備)は「階段」17.1%(88件)が最も多く、「脚立」6.4%(33件)、「ベッド」5.2%(27件)と続いた。65歳未満では、「階段」11.4%(78件)、「包丁」7.4%(51件)、「脚立」4.5%(31件)の順であった。「階段」は65歳未満、65歳以上のいずれにおいても1位であり、高齢者のうち75歳未満、75歳以上でみても同じく1位であった(別表)。

## (7) 事故のきっかけ

### 「転落」「転倒」が事故全体の約半数を占め、「転落」は死亡事故も発生している。75歳以上の「転倒」の割合は、75歳未満の約3倍である

事故のきっかけは、65歳未満の「転落」17.8%(122件)、「転倒」7.1%(49件)をあわせても約2割なのに対し、65歳以上では「転落」30.4%(157件)が最も多く、「転倒」22.1%(114件)、「さわる・接触する」14.5%(75件)と続き、「転落」と「転倒」あわせて約半数を占めた(図10-1、不明：65歳未満1件)。

高齢者のうち、75歳未満では「転落」30.1%(53件)、「転倒」8.5%(15件)、75歳以上では「転落」30.6%(104件)、「転倒」29.1%(99件)であり、高齢者では「転落」「転倒」による事故が多いことがわかった(図10-2、不明：75歳未満1件)。

危害の程度別にみると、「軽症」「中等症」「重症」ではそれぞれ「転落」が1位、「転倒」が2位であり、「転落」「転倒」をあわせると「軽症」43.6%(132件)、「中等症」65.9%(116件)、「重症」68.8%(22件)と症状が重くなるほど「転落」「転倒」の割合が高くなっていった。また、「死亡」の1件も「転落」であった(別表)。

事例をみると、階段や脚立、はしご等から足を滑らせての転落、段差につまずいての転倒などが多かった。

図10-1 事故のきっかけ

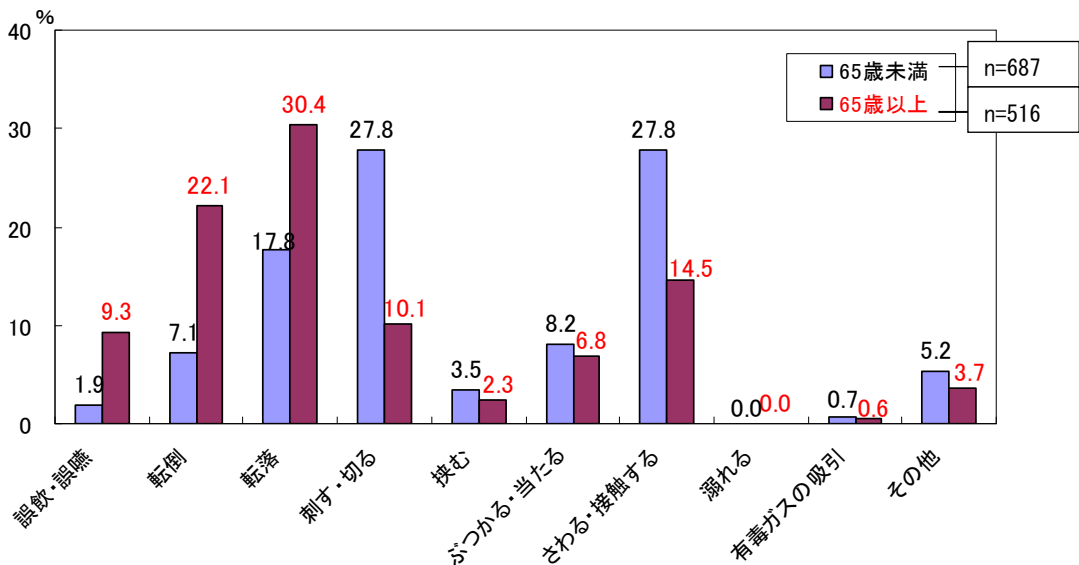
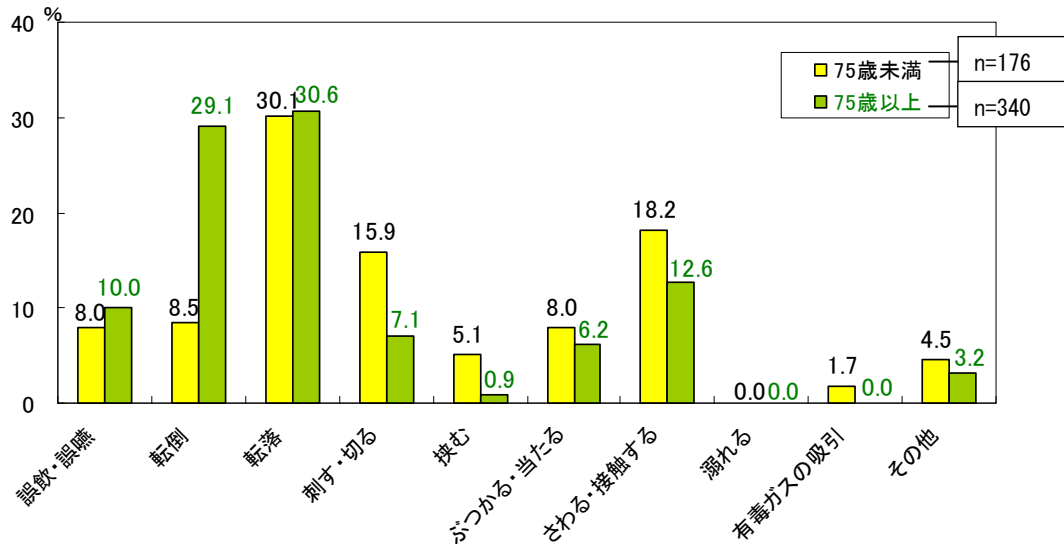


図 10-2 事故のきっかけ(65 歳以上の内訳)



○情報提供先

消費者庁消費者安全課  
消費者委員会事務局

本件問い合わせ先

商品テスト部：042-758-3165

7. 参考資料

(1) 中央労働災害防止協会

・ 2009 年度

「転倒等災害リスク評価セルフチェック実施マニュアル」(厚生労働省ホームページ内)

[http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/roudou/gyousei/anzen/dl/101006-1a\\_07.pdf](http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/roudou/gyousei/anzen/dl/101006-1a_07.pdf)

・ 2010 年 3 月

「高齢労働者の身体的特性の変化による災害リスク低減推進事業に係る調査研究報告書」

(厚生労働省ホームページ内)

<http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/roudou/gyousei/anzen/101006-1.html>



(別表) 家庭内事故の概要

	20歳以上65歳未満		65歳以上		65歳以上詳細別																							
					年齢階層別								危害程度別															
	65歳以上75歳未満				75歳以上				軽症				中等症				重症				重篤				死亡			
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%				
事故全体		962		669		243		426		386		236		39		2		6										
うち家庭内事故	687	71.4	516	77.1	176	72.4	340	79.8	303	78.5	176	74.6	32	82.1	1	50.0	4	66.7										
危害内容	1位	刺傷・切傷・裂傷	228	33.2	擦過傷・挫傷・打撲傷	137	26.6	擦過傷・挫傷・打撲傷	40	22.7	擦過傷・挫傷・打撲傷	97	28.5	擦過傷・挫傷・打撲傷	123	40.6	骨折	94	53.4	骨折	13	40.6	熱傷	1	100.0	内臓損傷	1	25.0
	2位	熱傷	128	18.6	骨折	112	21.7	刺傷・切傷・裂傷	33	18.8	骨折	80	23.5	刺傷・切傷・裂傷	69	22.8	熱傷	23	13.1	熱傷	6	18.8				窒息	1	25.0
	3位	擦過傷・挫傷・打撲傷	117	17.0	刺傷・切傷・裂傷	79	15.3	骨折	32	18.2	刺傷・切傷・裂傷	46	13.5	熱傷	38	12.5	擦過傷・挫傷・打撲傷	14	8.0	頭蓋内損傷	5	15.6				熱傷	1	25.0
	4位	びらん・炎症(眼・皮膚障害等)	67	9.8	熱傷	69	13.4	熱傷	28	15.9	熱傷	41	12.1	異物侵入	25	8.3	刺傷・切傷・裂傷	9	5.1	神経・脊髄の損傷	5	15.6				呼吸器障害	1	25.0
	5位	骨折	61	8.9	異物侵入	30	5.8	びらん・炎症(眼・皮膚障害等)	10	5.7	異物侵入	22	6.5	びらん・炎症(眼・皮膚障害等)	17	5.6	切断	6	3.4	刺傷・切傷・裂傷/びらん・炎症(眼・皮膚障害等)/切断	1	3.1				-	-	-
危害部位	1位	手指	197	28.7	頭部	89	17.2	手指	28	15.9	頭部	72	21.2	頭部	67	22.1	大腿・下腿	42	23.9	大腿・下腿	10	31.3	全身	1	100.0	鼻・咽頭	1	25.0
	2位	大腿・下腿	64	9.3	大腿・下腿	76	14.7	上腕(肩)・前腕	18	10.2	大腿・下腿	60	17.6	手指	39	12.9	胸部・背部	23	13.1	頭部	5	15.6				気道	1	25.0
	3位	手掌・手背(手首)	56	8.2	手指	52	10.1	頭部	17	9.7	上腕(肩)・前腕	32	9.4	上腕(肩)・前腕	31	10.2	上腕(肩)・前腕	19	10.8	首	5	15.6				腹部	1	25.0
	4位	顔面	53	7.7	上腕(肩)・前腕	50	9.7	大腿・下腿	16	9.1	胸部・背部	25	7.4	大腿・下腿	24	7.9	頭部	17	9.7	胸部・背部	4	12.5				全身	1	25.0
	5位	上腕(肩)・前腕	49	7.1	胸部・背部	37	7.2	足首から先(指を除く)	15	8.5	手指	24	7.1	顔面	24	7.9	足首から先(指を除く)	14	8.0	顔面	3	9.4				-	-	-
事故の発生場所(屋内)	1位	台所・食堂	213	38.1	居室	183	45.0	居室	42	34.1	居室	141	49.6	居室	107	45.0	居室	65	45.8	居室	10	43.5	その他	1	100.0	居室	1	33.3
	2位	居室	196	35.1	階段	76	18.7	台所・食堂	29	23.6	階段	50	17.6	台所・食堂	48	20.2	階段	34	23.9	階段	4	17.4				台所・食堂	1	33.3
	3位	階段	72	12.9	台所・食堂	69	17.0	階段	26	21.1	台所・食堂	40	14.1	階段	38	16.0	台所・食堂	17	12.0	台所・食堂	3	13.0				その他	1	33.3
	4位	風呂場	24	4.3	玄関	21	5.2	その他	10	8.1	玄関	18	6.3	その他	13	5.5	玄関	7	4.9	玄関	2	8.7				-	1(*)	-
	5位	洗面所	15	2.7	その他	18	4.4	洗面所	7	5.7	風呂場	9	3.2	玄関	12	5.0	廊下	5	3.5	廊下	2	8.7				※(屋外)敷地内園庭	-	-
原因となった商品・設備	1位	階段	78	11.4	階段	88	17.1	階段	31	17.6	階段	57	16.8	階段	47	15.5	階段	36	20.5	階段	5	15.6	教養娯楽品その他	1	100.0	調理パン	1	25.0
	2位	包丁	51	7.4	脚立	33	6.4	脚立	13	7.4	ベッド	24	7.1	脚立	17	5.6	ベッド	16	9.1	戸建住宅	3	9.4				弁当	1	25.0
	3位	脚立	31	4.5	ベッド	27	5.2	はしご	8	4.5	戸建住宅	22	6.5	他の調理器具	12	4.0	脚立	14	8.0	いす	3	9.4				はしご	1	25.0
	4位	他の調理器具	29	4.2	戸建住宅	23	4.5	農機具	6	3.4	脚立	20	5.9	ベッド	10	3.3	戸建住宅	11	6.3	脚立/ローソク/テラス/他の運搬用具	2	6.3				ローソク	1	25.0
	5位	保健衛生品その他	20	2.9	いす	18	3.5	電動丸のこ	6	3.4	いす	15	4.4	戸建住宅/医薬品	9	3.0	いす	8	4.5	-	2	6.3				-	-	-
きっかけ	1位	さわる・接触する	191	27.8	転落	157	30.4	転落	53	30.1	転落	104	30.6	転落	70	23.1	転落	75	42.6	転落	11	34.4	さわる・接触する	1	100.0	誤飲・誤嚥	2	50.0
	2位	刺す・切る	191	27.8	転倒	114	22.1	さわる・接触する	32	18.2	転倒	99	29.1	転倒	62	20.5	転倒	41	23.3	転倒	11	34.4				転落	1	25.0
	3位	転落	122	17.8	さわる・接触する	75	14.5	刺す・切る	28	15.9	さわる・接触する	43	12.6	さわる・接触する	43	14.2	さわる・接触する	25	14.2	さわる・接触する	5	15.6				さわる・接触する	1	25.0
	4位	ぶつかる・当たる	56	8.2	刺す・切る	52	10.1	転倒	15	8.5	誤飲・誤嚥	34	10.0	刺す・切る	42	13.9	誤飲・誤嚥	11	6.3	ぶつかる・当たる	2	6.3				-	-	-
	5位	転倒	49	7.1	誤飲・誤嚥	48	9.3	ぶつかる・当たる/誤飲・誤嚥	14	8.0	刺す・切る	24	7.1	誤飲・誤嚥	35	11.6	刺す・切る	9	5.1	その他	2	6.3				-	-	-

期間 : 2010年12月 - 2012年12月末

情報収集先 : 全国13の参画医療機関